

地球温暖化の影響

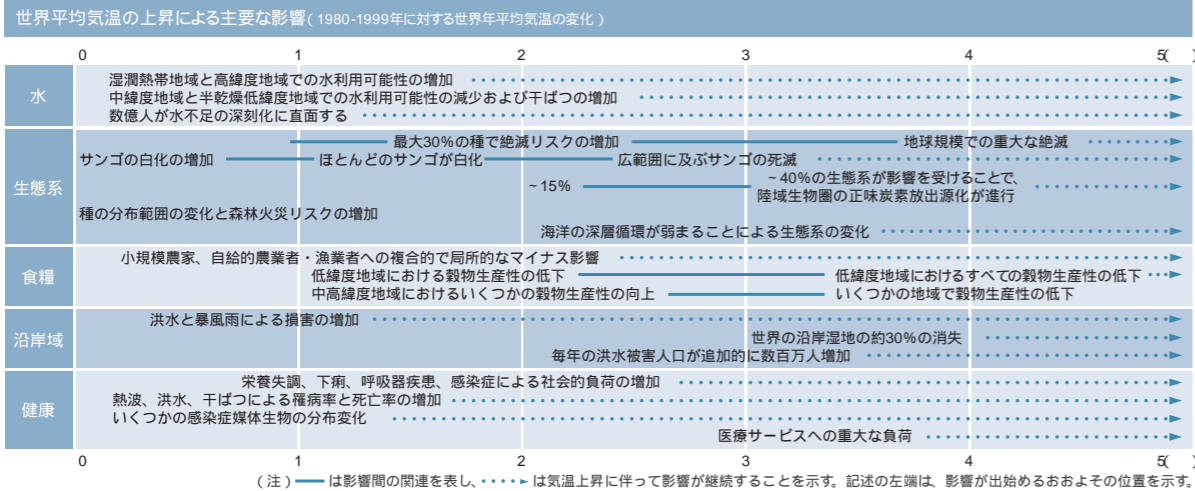


参考：環境省ウェブサイト(<http://www.env.go.jp>)、JICA「気候変動への適応策に関するJICAの協力のあり方」ほか

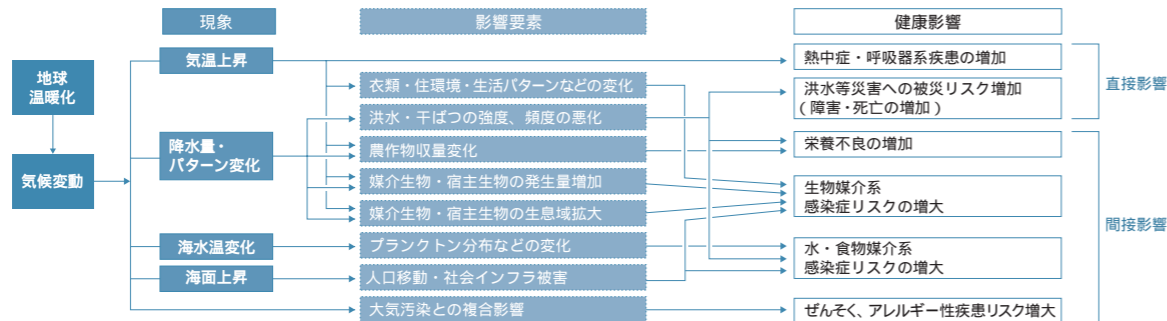
B セクター別の影響

DATA

出典：IPCCウェブサイト(<http://www.ipcc.ch>) JICA「気候変動への適応策に関するJICAの協力のあり方」



気候変動と人の健康影響との相関関係



日本でもマラリアが流行？

気候変動は、さまざまな分野に多くの影響を及ぼす。その空間的・時間的広がりが大きいため、最大の地球環境問題といわれている。

上の表は、平均気温が上がるにつれ地域や人々が被る影響をセクター別に示したものだ。IPCCは、全球平均気温の上昇が1990年レベルと比較して2~3度以上となる場合、すべての地域において負の影響が生じる可能性が非常に高いと指摘している。80~99年に対して1度以内の上昇であっても、干ばつの増加やサンゴの白

化など水や生態系への負の影響が予想される。2~3度上がると海洋の深層循環が弱まることによる生態系の変化や医療サービスへの重大な負担が始まり、4度上昇で地球規模での種の絶滅の危険にさらされる。

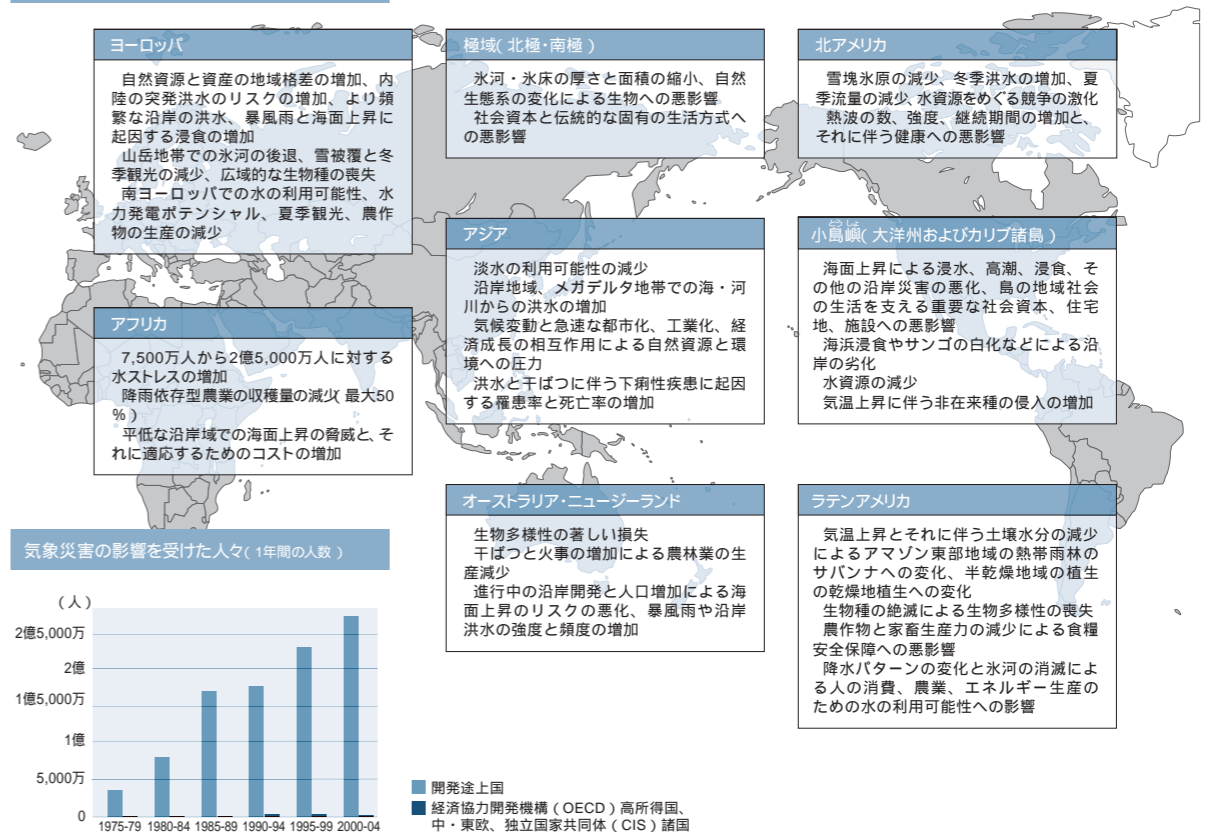
下の図は、気候変動と人の健康影響との関係を表している。気温上昇や降水パターンの変化、海水温変化や海面上昇がさまざまな環境を変化させ、人の健康に直接的・間接的影響を及ぼす。このまま温暖化を放置すれば、現在熱帯で猛威を振るうマラリアやデング熱が近い将来、日本にも広がるかもしれない。

A 気候変動によるリスク

DATA

出典：気候変動に関する政府間パネル (IPCC)「第4次評価報告書統合報告書 政策決定者向け要約 (SPM)」、国連開発計画 (UNDP)「Human Development Report 2007/2008」

地球温暖化で予想される各地域での主な影響



大きな影響を受ける開発途上国の人々

2007年11月、気候変動に関する政府間パネル(IPCC)の第27回総会において、気候変動の現状と今後の見通しについて最新の知見を取りまとめた報告書が承認された。報告書は気候システムに地球温暖化が生じていることは疑う余地がないとし、人間の活動を起源とする温室効果ガス(GHG)の増加が温暖化の原因であると断定している。

上の図はIPCCが予測した、温暖化が将来地域にもたらす影響だ。海面上昇や干ばつ、洪水、台風などの災

害が、地球上のすべての地域を危険にさらす。

温暖化に伴う気象災害の数は増え続けており、被災者の数も増えている。気象災害は世界中の人々に影響を与えるが、その多くは開発途上国の居住者だ。2000年から04年にかけて、途上国では平均すると19人中1人が気象災害の影響を受けた。一方、経済協力開発機構(OECD)加盟国、すなわち先進国の人々が影響を受けた割合は1,500人中1人だった。そのなんと79倍。これまで多くのGHGを排出してきた先進国の責任ある対応が問われる。